

第6期講座が修了
しました！



令和5年9月から11月にかけて森の伝え手講座（旧インタープリター養成講座）を開催しました。令和4年度から、森の伝え手講座としてリニューアルした本講座を今年度、さらに内容をブラッシュアップし、横浜市の森についての解説や森の施策についての座学も行い、より理解を深めていただく時間を設けました。

今期の講座の受講生は22名、全5回の講座で、森の魅力を伝える様々な方法を学びました。自然体験プログラムには、自然観察ガイドやクラフト、展示など様々な方法があります。

講座を通して自分に合ったプログラムの実践方法を学びました。

よこはまの

I P

森

の

伝え手



通信
vol.2

旧インタープリター（IP）通信



令和6年3月発行

横浜市環境創造局

みどりアップ推進課



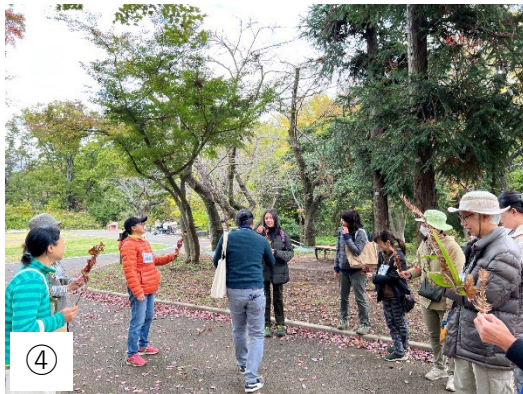
①



③



②



④

①座学の様子②自然観察案内の様子③野外解説板づくり
④プログラムの実践（「自然素材でステキな棒を作ろう」）

①座学やグループワークを通して伝える・伝える方法を学びます。第1回はショートプログラムを体験しました。②新治市民の森にて自然観察案内を体験とレクチャーを通して学びました。事前の計画や下見の大切さが分かりました。③野外解説板づくりの実習を通して様々な伝え方を体験しました。④受講生が自分で考えたプログラムの発表を行いました。



令和5年度の全5回の様子を紹介します！

横浜市「森の伝え手講座」のホームページではインタビューとして活躍している方のインタビューや活動の様子を紹介した記事を掲載しています。ぜひのぞいてみてください。

検索

横浜市 森の伝え手講座



ショートプログラムの様子

第1回目の様子
「森の楽しみ方を伝える方法を学ぶ」
魅力を伝える一歩目は、自分の感動や興味から始まります



↑ショートプログラムで自分がグツときたポイントを共有しました。

第2回目の様子
「自然観察プログラムを体験し自然の見方を学ぶ」
千里の道も一歩から！
にはる里山交流センターで実際に自然観察案内をされている方に講師をしていただきました



新治市民の森の吉武さんによるレクチャー

←ナラ枯れの解説をしています。長い目で見ればナラ枯れも自然のサイクル。実物とフリップによる解説でとても分かりやすい説明でしたね。

落ち葉の気持ちになってみよう→
4人1組で4枚の作品を合わせて落ち葉を用いて物語を作り、他の班に向けて発表しました。
森の素材を使った汎用性の高いプログラムで誰に（対象者）、どのようなこと（伝えたいこと）を伝えるためのプログラムか意識して作ることの大切さを学びました。



第3回目の様子
「様々な手法を学ぼう！森の材を使ったクラフトや展示」
クラフトや展示の伝え方を学びました

修了生の皆様には今後もしも学んだことを活かしてぜひ実践を積んでいただくと嬉しいですよ☆



プログラムの発表

第4・5回目の様子
「森の楽しみ方を伝えるための短いプログラム作り挑戦！」
第4回講座では講師のアドバイスを受けながら実際にプログラムづくりを行い、第5回講座にて発表を行いました。